

ばれっと

2007
10月

No.98

市民活動シアターは、オープンから1年間で約7,500名の利用がありました！※詳しくはP4, 5へ

■ 目次 ■

- チーム アイ
- P. 2~3 すぽっとらいと 「特定非営利活動法人 TEAM i」
- P. 4 サポセン日記
- P. 5 ミニ サポダス
サポ本を読もう！
サポセン広場
- P. 6 アラカルト 8/25「協働ナビゲーションフォーラム」報告
- P. 7 イベント紹介
- P. 8 お知らせ など



サポセンひとコマ

地下の貸室、市民活動シアターにて。
真剣な表情で作業をする
「自分イナイ」公園管理組合の橋元さん。
4ページにインタビューが！

すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

サポートセンターの7階に市民活動共同事務室※（以下事務用ブース）があるのをご存知ですか？市民活動団体のみなさんが、事務室として使えるスペースです。

今年の8月31日で、3年間の入居期間を終えて退去した特定非営利活動法人TEAMi（チームアイ／以下TEAMi）の島崎綾子さんに、これまでの活動の成果や今後の展望などを伺いました。



●立ち上げのきっかけ

「可能性を秘めている子どもたちに、トップアスリートになるための環境を」そんな思いで始まったTEAMiの活動は、今年で7年目。女子バレーボールチームを立ち上げ、法人格を取得した初年度の2004年に全国ヤングバレーボールクラブ交流大会で優勝するなど、実力を発揮しています。

スポーツの振興とトップアスリートを養成することを目的に活動しているTEAMi。どのように団体を立ち上げ、どう活動を展開していったのでしょうか。

TEAMiができる前のこと。のちに理事長になる板垣さんは、中学校バレーボール部を指導する立場にいたそうです。毎年スポーツで頑張る生徒たちを見ながら、才能があるにも関わらず、その才能を伸ばす機会や環境が十分でない選手がいることに、もどかしさを感じていました。また、中学生など思春期のジュニアアスリートには個人個人の成長に合わせたトレーニングが必要不可欠であることを知り、これまで画一的に行われていた練習や指導法などに疑問を感じた板垣さんは、可能性のある子どもたちが一人ひとりにあった指導を受け、その才能を十分に伸ばすことができることを目標に2001年3月に任意団体でTEAMiを立ち上げました。

●TEAMiの目指すもの

現在、事務局を担うスタッフは約10名で、その他に団体の活動に賛同してくれる個人や企業の会員が50名ほどいます。バレーボールを行う「TEAMi」と



ビーチバレーボールの「マーメイド」というチームを作り、その二つを中心に活動を展開中です。将来的には多くの子どもたちが自分の好きなスポーツで実力を伸ばせるように、様々なスポーツができるクラブチームを作り、トップアスリートを養成することや、多くの市民へスポーツを身近に感じてもらうためにヨーロッパ型のクラブチームを作ることが大きな目標です。このヨーロッパ型のクラブチームとは地域に根ざしたスポーツクラブで、初心者もプロも地域に住む誰もが、それぞれの状況に合わせてスポーツを行える場です。身近にプロが練習している風景があることで、周囲が触発されて上達したり、スポーツが好きになるなど計り知れない効果があるとか。「日本でこれが実現した場合、きっと金メダルが取れるような選手がたくさん生まれる」と島崎さんは話します。

●事務や会議をする拠点ができた

バレーボールを中心に活動し、多くの大会で上位に入るなど実力十分のTEAMiですが、実際に団体を運営する上では苦勞したようです。初めは事務を行う拠点が特に定まっておらず、板垣さんが自宅で事務作業をしたり、スタッフそれぞれが団体の備品などを分担して保管していました。会議は何かイベントがある前に時間を見つけて行っており、定期的にスタッフが話し合う場を持つことが難しい状況だったそうです。そんな時に、ホームページでサポセンの事務用ブースのことを見つけ「審査はあるけれど、みんなが集まりやすい街中にあるから申し込んでみよう」と法人格を取得した2004年にサポセンの事務用ブースを申込み、審査を経て入居しました。

「事務用ブースへ入居してから、安定して会議や事務作業が行えるようになった」と島崎さんは言います。その影響は活動の多方面で現れてきたようです。例えば、これまではメンバーがそれぞれに資料を持ち、各自宅で作業を行っていましたが、それら

団体紹介

チーム アイ

「特定非営利活動法人 TEAM i」

地域の小・中学校の女子選手の健全育成とスポーツの振興を目的に2001年3月に設立。その後、2004年4月にNPO法人化。スポーツ全般の振興や青少年の健全育成、ジュニアアスリートの育成とスポーツの指導者の育成に寄与するべく活動を展開している。

<団体連絡先>

理事長 板垣光則

住所：宮城県柴田郡川崎町支倉台1-13-37

電話：090-8618-7790

http://www.m-star.jp

E-mail：vb_team_i@yahoo.co.jp



をサポセンの事務用ブースでまとめて保管することで集中して作業ができるようになりました。

●拠点ができた強みと活動の広がり

また事務局の基盤がしっかりした結果、スタッフの人材育成に力を入れることができたのも成果の一つです。それまでは特定のスタッフの能力に頼る運営が大きく、できる人が様々な大会の企画や運営を行っていましたが、現在は他のスタッフにもどんどん任せられるようになりました。その結果、スタッフそれぞれに力がついていったと話します。

サポセンにいた間に生まれた活動もあります。例えば、トレーナーの勉強会がそうです。素質のある選手がいても、その人たちをサポートする人材が必要だという思いが団体にありました。トレーナーの勉強内容は幅広く、医学的知識を基に怪我の予防のためのアップ・ダウンのストレッチ、練習・試合前や体を作るためのコンディショニングトレーニング、怪我をした選手のリハビリトレーニング、テーピング、摂取する水分の管理まで細部にわたってサポートをします。

一方トレーナーが抱える悩みとして、学校で勉強してもトレーナーとして現場に出る機会がないケースが多々あるそうです。そのためトレーナーを活かして育てる場として勉強会を開催しました。そして、ただ勉強するだけに終わらせることなく、そこでつけた力を現場で発揮しています。その結果、選手はきめ細やかなサポートを受けられ、トレーナーは現場で活躍できるようになり、お互いにメリットが生まれました。

また子どもたちからの要望があつて、学校の勉強をサポートし始めたのもサポセンで活動していた頃からです。子どもたちはそれぞれ違う学校に通っており、教科ごとの進み具合も様々です。お互いの進度や理解度を比較することで勉強に張り合いが出たり、ここに来れば仲間と会えるという気持ちもあるようで、TEAMiはメンバーにとってなくてはならない空間になっているようです。

●他団体とのつながりと今後の展望

ほかの事務用ブースに入居している団体との交流を通して、様々な情報を収集できたというメリットもありました。他分野で活躍する団体の存在を知って、何か情報がほしいときはサポセンに来ればいいと思ったそうです。さっそく、この9月に新しく事務用ブースへ入居したアイ・ステーションと知り合う機会があり、そのつながりで今後はアイ・ステーションの活動の一環としてサポセンで子どもたちへ学習のサポートを行うことが決まったほか、トレーナーの勉強会は、同じく新しく事務用ブースへ入居したBukatsu.com（ブカツドットコム）が引き継ぐそうです。

退去後は事務用ブースのような皆が集まる事務室を借りず、スタッフそれぞれが担当している業務の書類を持ち、それぞれが事務機能を担うようになると話します。しかし、事務用ブースに入居したこの3年で組織内での役割分担が明確になったため、事務局の運営で混乱することはないと表情は晴れやかです。

このサポセンにいた間、アスリート同士はもとより、スタッフ同士の絆も深くなったとか。「アスリートたちの笑顔を見るためにスタッフが集まってきます。そして、何よりもスタッフが楽しく、参加したくなる活動になってきています。時には苦しい活動やスケジュールの中でも、お互い信頼し助け合え、なおかつ成長できる環境は、アスリートだけでなく我々スタッフにとっても大事な空間だと思っています。」と、島崎さん。

ジュニアアスリートを育てられる環境を作り、トップアスリートを養成するために。また、地域に住む誰もがスポーツを楽しむことができるよう、ヨーロッパ型のクラブチームを作ること为目标に、TEAMiの活動は今後も続きます。

(担当：本田 ふみ)

※事務用ブースとは

市民活動団体の事務室として活用できるスペース（2m×2m）。利用にあたっては、当初申請時と更新時に審査がある。最長で3年間の入居が可能。使用料は1ヶ月あたり7,000円。3ヶ月ごとの活動報告書の提出が必要。

◆サポセンのサービスいろいろ。
どんなふうに見えるのか紹介します！

サポセン日記

今月のテーマ
～ 市民活動シアター ～

文化・芸術に関するイベントに使える
「市民活動シアター」

●市民活動シアターってどんなところ？

昨年9月1日にオープンした市民活動シアター（以下シアター）は、社会や地域の課題解決をめざす市民活動を行う団体の活動のほか、文化芸術の創造・振興・普及をめざす活動も対象にした貸室で、市民活動団体以外でもお使いいただけます。サポセンの地上階の貸室では行うことができない、楽器の演奏や演劇等も行える空間です。

定員が167名と、サポセンの中では一番大きな貸室となっており、文化・芸術の公演だけではなく、大規模なシンポジウムや映画の上映会でもご利用もできます。

1年間の利用状況を見てみると、音楽系のライブでの利用が一番多く、ほかに映像の上映会や、シンポジウム、展示会等幅広い利用があります。

●シアターを借りるにはどうするの？

まず申し込みの前に、「事前相談シート」に公演内容の記入をしていただきます。シアターで公演を行える内容かどうかを事務局が確認し、使用の可否をご連絡します。可能の場合、この時点で予約が完了となります。

次に窓口で正式な申し込みをしていただきます（本申込み）。「使用申込書」を1階窓口へ提出し使用料をお支払いください。なお貸出備品は、使用日の当日にお支払いいただきます。

詳しい貸室料金や、設備について知りたい方は、スタッフまでお問い合わせください。

■申し込みの流れ

- ① 「事前相談シート」提出（窓口／FAX）
↓
- ② 予約 ※7日以内に本申込みの手続きが必要で
↓
- ③ 本申込み（窓口）

使っていた人に突撃インタビュー！

—— 今回は、8月19日にシアターを利用していた「自分イナイ」公園管理組合・橋元成朋さんにお話を伺いました。

スタッフ：今日はどんな内容でシアターを利用しましたか？

橋元さん：「自分イナイ」公園という、音楽を中心とした表現イベントです。会場を仮想の公園に見立てて楽器を持ち寄り、即興による演奏を行いました。

スタッフ：シアターを使ってみてどうですか？

橋元さん：立地がいいですね。BEEB時代（※）から利用していたので、使い勝手が分かるから利用しやすいです。大きさや料金が今回のイベントにはちょうど良いです。

※サポセン移転前のシアターは、「BEEBベースメントシアター」というイベントホールとして運営されていました。

スタッフ：シアターへの要望はありますか？

橋元さん：やっぱり日曜日が18時閉館なのは、厳しいなあ。後は、音響機材がもっと充実してくれば、持ち込まずにできるので楽ですね。

スタッフ：橋元さんは、オープン直後にもシアターを利用しましたが、1年前と比べてスタッフは成長していますか？

橋元さん：うーん。今日は会場を借りただけだから成長度を確かめる機会は無かったなあ。ただ、備品を借りたときは使用についての指示してくれるから、その面で安心感はありました。次の利用の時に、成長度を確かめたいと思います。

—— 期待に応えられるよう、これからも精進していきたいと思います。どうもありがとうございました。（担当：内川 奈津子）

ミニサポダス

◆サポセンの利用状況を毎月テーマを変えてお知らせしています！

■オープンから1年！数字で見る市民活動シアター

移転を機にサポセンの貸室として新たに加わった市民活動シアター（以下シアター）も、オープンから1周年を迎えました。これまでシンポジウム、演劇、コンサートなどで幅広く利用されてきたシアターの利用状況を振り返ってみましょう。

2006年9月から2007年8月までの間、シアターは71日間、のべ52の団体に利用されました。1日に複数回の公演が行われる場合もあるので、イベント開催数でみると83回のイベントが開催されたこととなります。利用内容は、コンサートでの利用が最も多く、他にも演劇、上映会・展示会、発表会などで利用されました。

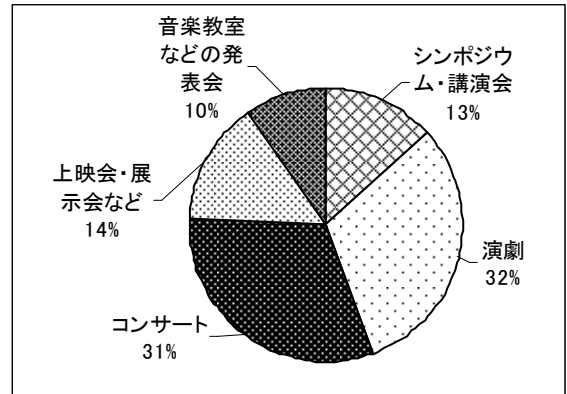
利用人数は約7,500名になりました。プロの演劇やコンサートからアマチュアの発表会まで、幅広く多様な使い方をされているのがシアターの特徴です。数字には表れていませんが、会場で飲食が可能などところも好評で、コンサートを見ながら、または公演終了後の交流会で、飲食を楽しむような利用が何度もありました。

（担当：高橋 陽佑）

●市民活動シアター 利用状況

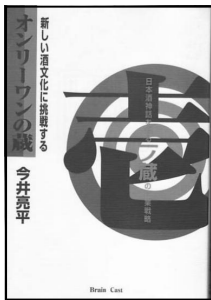
利用日数	71日
利用団体数	52団体
イベント開催数	83回
利用人数	7,487名

●市民活動シアター 利用内容



サポ本を読もう！

◆サポセンの図書コーナーの本を紹介します。



新しい酒文化に挑戦する
オンリーワンの蔵
著者：今井亮平
発行：ブレインキャスト
定価：1,500円（税抜）

仕事を通じて地酒と出会った著者が、酒の造り手、蔵の経営者の姿・思想が見えないお祭りの地酒ブームに疑問を呈した一冊。地酒ブームはなぜ起き、どのようにして市民権を得てきたのか、その本質を「蔵」をはじめとした地域の「蔵」の営みを通じて述べている。一方で地酒ブームに大きな影響を与えた「本名門酒会」の果たした役割・組織・人物についても詳しく紹介している。業界のオンリーワンを目指し、一つの理念のもと山積の課題を解決しながら「蔵」を立ち上げた四人の地元の若者の飽くなき熱き闘いは、困難な事でも不可能はないと読む者を力づける。地域で種々活動している団体や住民、あるいはこれから起業を目指す人にもお勧め出来る内容である。

また随所に姫膳・富久錦・越乃寒梅・久保田等々、左党にはたまらない銘酒の逸話も楽しめ、本書を一読することにより、更に味わい深いお酒になること間違いなしである。

担当 関口 憲二

サポセン広場

◆利用者の皆様から寄せられた声にお応えします。

交流サロン(5階)では、お茶を飲んで一息入れました。ここは、オアシスのような場所でもあります。

作業や打合せで少し疲れたら、休憩すると後の作業がはかどりますよね。1階の事務局で茶器類を貸出していますので、ぜひご利用ください。

サポセンの空調は事務局で集中管理をしています。温度でお気づきの点がありましたら調整しますので、お手数ですが事務局までお知らせください。

戸をしめると冷房があまりきかず、暑苦しかった。

冷房が強いです。

アラカルト

◆市民活動の旬の話題やサポセンで開催された講座の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

平成19年度 ネットワーク推進事業

協働ナビゲーションフォーラム 報告

日時：2007年8月25日（土）13:30～18:30

会場：仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール

第一部 協働環境を知り使いこなす

講師：加藤 哲夫氏

（特活）せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事

■協働を進めていくにあたって知っておきたいこと

協働を促進するにあたって、NPOの側が行政の施策について知らない、行政の側も協働の進め方がよくわからないという問題があります。そこで協働環境を知り、使いこなすためにはどのようなことを知ればよいかをお話しします。

まず、市民が市民参加の権利を持っているということを確認しましょう。その権利を活かすには行政からの情報入手の方法を熟知し、活用することが重要になります。また、審議会・委員会への提案をすること、条例や基本計画を知ること、計画の評価をすることなどもしていくとよいでしょう。

それから団体としては、情報開示を進め信頼性を高めること、事業の実施能力を向上させることなどが大事です。行政側も、NPOの信頼性が低いために協働へ踏み込めないということがあるからです。

行政からの情報入手の具体的な方法としては、担当課に問い合わせる、ホームページから探す、市政情報センターや情報公開条例を使うなどといったものがある

NPOと行政による協働の事業が増えています。よりよい協働環境を築くためにはどうすればよいか、今回の協働ナビゲーションフォーラムを通して考えました。

ります。行政のホームページでは様々な指標を元にデータが出ていて、政策の評価がなされているものもあります。こうした指標はNPO側の活動の自己評価に使うこともできます。

■仙台市ホームページから情報を探す

では実際に、仙台市ホームページから協働の情報を見てみましょう。市民活動のコーナーには仙台市がNPOと行った協働事業の一覧があり、事業の概要と評価が協働実績シートとして公開されています。協働相談所や、行政職員向けの協働のマニュアルである「仙台協働本」のページにも行けます。

ホームページには市民参加の制度として、広聴制度についての記載もあり、議会への請願についても説明されています。請願権は憲法16条で保障されている国民の権利であり、議会だけでなく行政部局に出すことも可能です。

次に具体的な政策として、男女共同参画や市民活動についてホームページの情報を見ていきましょう。仙台市ホームページには、基本計画とその評価、委員会・審議会の構成やそこでの答申成果、議事録などが公開されています。こうした情報を知ることによって市民の側からの政策提案をしていくことができます。

第二部 もっとも知りたい、

事業費積算のノウハウ全公開

講師：馬場 英朗氏

（特活）ボランティアネイバーズ 理事

■「フルコスト回収」提言への経緯

愛知県ではNPOと行政の協働の促進に向け、双方の守るべきルールとしてNPOと行政により『あいち協働ルールブック2004』をつくりました。その後、NPOと行政の実務者会議をつくり、より実務に近い問題として委託事業の積算について検討を行いました。委託事業でのNPOの人件費が低いという問題があり、一方でNPO側も基準となるモデルを出せないでいたからです。実務者会議での検討の結果、フルコスト回収という考えを提言として出しました。

フルコスト回収とはイギリスで議論されている考え方で、直接費のみならず、間接費も含めて事業を実施するために必要なコストをすべて回収するというものです。フルコストに含まれる間接費としては、事務所維持に関する費用、本部機能に関する費用、ガバナンスに必要な費用などが挙げられます。

■問題点の分析と改善への提言

まず人件費について、一定の品質が求められる業務にはそれに見合ったものにすべきであり、業務のレベ

ルに応じて国土交通省の技術者単価や国税庁の民間給与調査などを参考にしよう提言しました。次に事業費と間接費の問題ですが、間接費がまったく積算されていないケースもあり、実務者会議での調査と議論の結果、現時点では事業費の30%程度は積算すべきとの結論になりました。

実際の協働事例として相談業務や講座の開催、施設管理について分析したところ、適正な人件費単価や間接費が積算されていませんでした。また施設管理では、行政直営時代には他の部門が行っていた間接業務のコストが積算に考慮されていないことがわかりました。

■今後の課題

事業化した団体では適正な委託費がないと団体の運営に支障が出てきますが、ボランティア的な団体では協働で事業することが大事で、委託費をさほど重要視していないこともあります。両者が混在しているようなケースもあり、これらの整理をしなければなりません。また、NPOにふさわしい人件費および間接費の水準を明らかにする必要があります。そしてNPO自身がフルコストの内訳の説明を社会に対して適切にできることが大切です。

（担当：布田 剛）

イベント 紹介 10月



- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

開催日	時間	イベントタイトル	貸室	参加費	主催	問い合わせ先
9/27	12:30 ～ 15:30	みんなでつくる環境政策 ～21世紀環境立国戦略編～	セミナー ホール	無料 (事前申込必要)	環境省東北環 境パートナー シップオフィ ス	TEL 022-290-7179 FAX 022-290-7181 (谷田貝泰子)
10/1	10:30 ～ 11:50	平成19年度 赤い羽根共同募金運動 開始式	セミナー ホール	無料 (事前申込不要、 先着100名)	仙台市共同募 金委員会	TEL 022-223-2020 FAX 022-262-1948 (高橋、吉澤)
10/1～ ・ 10/2～	10:00 ～ 12:00	認知症予防を目指す「脳トレ塾」 簡単な読み・書き・計算 月曜コースと火曜コース	研修室 2	2,000円 (月4回) (事前申込必要)	NPO法人 日本脳トレー ニング協会	TEL 022-373-1468 FAX 022-214-8551 (佐藤)
10/3 ・ 10/17	19:00 ～ 20:30	10/3 デザインカぐ〜んとUPゼミ 10/17 デザインカもっともっとUPゼミ	研修室 2	各1,000円 (事前申込必要)	メディアデザ イン	TEL090-3049-0613 FAX 022-224-5308 (千葉)
10/4 ～ 全6回	18:30 ～ 21:00	フットケアでリフレッシュして、 ボランティアにも活用してみよう。 気軽に出来る健康法です。	研修室 3	受講料20,000円 認定・申請テキス ト代10,000円 教材費7,000円 (事前申込必要)	JRFA足市場	TEL 022-223-9023 090-7564-9831 FAX 022-223-9023 (森)
10/6	14:00 ～ 17:00	子どもの非行や荒れに親としてどう 向き合えばいいのか？一人で悩まず 一緒に分かち合いませんか？	研修室 3	500円 (事前申込不要)	「非行」と向 き合う親たち の会	TEL090-5235-4247 (野口りこ)
10/7 ・ 10/21	13:20 ～ 16:30	7日(日): 歴史・地理・交流 21日(日): 国語・社会・交流 クラブ活動、抽選会もあります。	セミナー ホール	1,000円 (事前申込必要)	シニア元気笑 学校	TEL 022-248-3765 FAX 022-248-3775 (渡辺源治) ※申し込みは FAXで
11/5 ・ 11/12 ・ 11/19	13:00 ～ 15:00	定年後、趣味個性を活かし一人ビジ ネス講座～セカンドステージは個性 を活かし心豊かに自己実現～	研修室 2	500円 (全3回・ 資料代) (事前申込必要)	宮城県社会福 祉協議会 (いきいきSUN クラブ)	TEL 022-223-1171 FAX 022-223-1151 (八嶋 豊)

仙台市シニア活動支援センターからのお知らせ

■専門相談<無料・要必要>

10 月	13日 (土)	町内会デビューを応援します！ ○専門相談員 仙台市内 町内会会長(予定) 仙台市の担当者
	25日 (木)	シニアの起業を支援します！ ○専門相談員 (財)仙台市産業振興事業団担当者 国民生活金融公庫担当者(予定)

サポセンの3階にある
シニア活動支援センターからの情報をお届けします！

■シニアサロン<参加費1500円(ワンドリンク付)要申込>

10/22(月)	「セカンドライフは百花繚乱」 ～始める、続ける、継承する。 シニア活動の秘訣(コツ)を聴く～
□ゲスト	・NPO法人東北マンション管理組合連合会 会長 鎌田 坦さん ・シニア元気笑学校 校長 渡辺源治さん ・藤田佐和子さん(NPO法人あかねグループ 前代表理事)

□仙台市シニア活動支援センター TEL:217-3983

お知らせ

仙台市市民公益活動促進委員会の委員募集

NPO（民間非営利団体）やボランティアなどの市民公益活動の促進のため必要な事項について、市で選任した学識経験者等の委員とともに調査・審議していただく方を募集します。

- 応募資格：市内にお住まいの20歳以上70歳以下（任期開始時）の方。過去に本委員会の委員を務めた方及び任期開始時に本市の他の附属機関等の委員となっている方を除く。
- 募集人数：2人程度
- 任期：平成20年2月から平成22年1月までの2年間
- 応募方法：市役所本庁舎4階地域活動推進課市民活動支援室で配布する申込書（市HPでダウンロード可）と小論文（800～1,200字程度）を10月25日～31日に市民活動支援室に提出してください。※詳細はお問合せください。
- 面接：11月22日（木）
- 問合せ先：地域活動推進課市民活動支援室
（電話）022-214-8002



編集後記

TEAMiさんのお話を伺って、事務局や選手、その保護者など、関わる全ての人にとってTEAMiは大切な場なのだということが伝わってきました。今後のご活躍をお祈りいたします！（本田ふみ）

イベント満載の季節・秋。サポセン1階のチラシコーナーにはたくさんのチラシが寄せられています。興味のあるイベントや団体に出会えること間違いなし！ぜひ手にとってご覧ください。（千葉やす恵）

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

- 開館時間 平日／午前9時～午後10時
日曜・祝日／午前9時～午後6時
- 休館日のお知らせ（施設点検等のため）
9/26(水) 10/31(水)

サポートセンターのサービスあれこれ

- 貸室
（研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料）
打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー（有料）レターケース（無料）事務用ブース（有料）
- 交流サロン
少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース（無料）
チラシ・ポスターの掲示、展示スペース
インターネット接続スペース（要申込／無料）
- 情報サロン
市民活動団体に関するさまざまな情報があります。
市民活動相談の受付や図書の閲覧・貸出も行っています。
市民活動に関する情報収集用インターネット閲覧（無料）
- 印刷作業室
印刷機（紙持ち込み／1製版100円、紙折り機（無料）
コピー機（1枚10円）

問い合わせ先

発行：仙台市市民活動サポートセンター
（指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター）
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

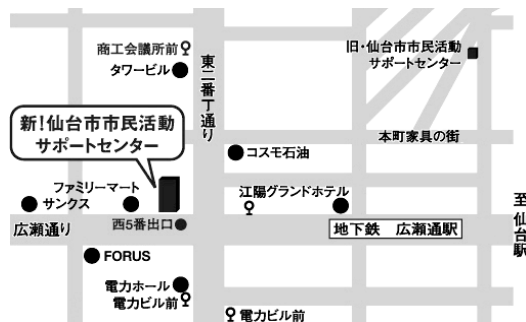
発行日：2007年9月20日
編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター
編集人：本田ふみ 千葉やす恵

- ★古紙100%使用再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。
指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日

案内図



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、
広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前
[地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ
- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。
お車や自転車でご来館される方は、
周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。